

現存する 209 系

高校一年 A 組 齊藤 直道

昨今の E233 系や E231 系が増備されていく中で、その礎となった現存する 209 系について紹介します。

★はじめに…

この 209 系は、JR 東日本が「コスト半分、寿命半分、電力半分」をコンセプトに 901 系という 209 系に似た試作車を、1992 年に 3 編成製造しました。今までの車両との大きな変更点は、ドアを空気式という空気力でドアを開閉する方法から、電力でドアを開閉する電気式という方法にしたり、車内に LED を付けて次の駅を表示したり、VVVF インバータという当時の新しい制御装置が採用されたり、車体を従来ならば 20～30 年使っていたものを、13 年間という今までの約半分の期間だけの運用にすることで、車体の時代遅れの解消などをするというものでした。

こうして 901 系での成果を元に、209 系の製造が開始されました。

1.209 系 0 番台



1993 年、京浜東北線に 209 系が初めて投入されました。

しかし今回は、現存するものだけにふれていきたいので京浜東北線の 209 系については省略します。

現在、南武線に 0 番台が 1 編成だけ走っています。この車両は京浜東北線の 0 番台とほぼ

同時期に完成したものです。南武線の 209 系は同線を走る 205 系と同じく、ラインカラーが上から黄色、オレンジ、茶色となっています。仕様のほとんどは京浜東北線と同じですが、6 両編成のため中間車が減っています。営業最高速度は、京浜東北線と同じ 95 km/h です。編成図は以下の通りです。(Tc は制御車、M は電動車)

Tc209	M209	M208	M209	M208	Tc208
←川崎			立川→		

2.209 系 500 番台



0 番台の生産後、中央・総武線に残っている 103 系を置き換えるため作られたものです。しかし車体は、当時最新のデザインであった E231 系の試作車の 209 系 950 番台を流用し、その他のシステムは、0 番台を流用するというもので、E231 系が出るまでのつなぎとしてしか考えていなかったようです。そのため、半端な 170 両という数しか作られませんでした。しかし、170 両 17 編成のうち 5 編成はさまざまな路線に移動しています。京浜東北線に移動したのち京葉線に移動、その後さらに武蔵野線に移動…というように何度も移動した編成もあります。今は京浜東北線には、1 編成も所属していません。こちらも 0 番台同様、営業最高速度は 95 km/h です。

編成図は以下の通りです。(T はモーター無し中間車)

Tc209	T209	M209	M209	T209	T209	T209	M209	T208	T208
←大宮					大船→				

3.209系 3000番台



1996年、八高線八王子～高麗川間の電化に合わせて製造されました。基本的にはこの番台からの大きな変更はないものの、八高線内での長時間停車を考慮して、半自動ドア機能を追加してお客様に自分でドアを開閉してもらうようにしました。ラインカラーは黄緑とオレンジの2色となっています。川越線への直通電車も存在しています。営業最高速度は85 km/hと少し遅めです。編成図は以下の通りです。

Tc209	M209	M208	Tc208
←川越			高麗川・八王子→

4.209系 1000番台

1999年、営団千代田線、常磐線のダイヤ改正により製造されました。ただし、この番台は営団千代田線に直通するのを考えて作られているため、前面のフォルムが他の形式より特に変わっていて、貫通扉がついていました。ラインカラーは先代の203系の帯の色と同じエメラルドグリーンとなっています。なお、これはほとんど生産されることがなかったため、わずか2編成しか製造されることはありませんでした。編成図は以下の通りです。

Tc209	M209	M208	T209	M209	M208	T209	M209	M208	Tc208
-------	------	------	------	------	------	------	------	------	-------

←取手

代々木上原→

5.209系 3100番台

埼京線とりんかい線の相互直通運転拡大の際、八高線に入線予定だった205系が埼京線に入ったために八高線の車両が足りなくなっていました。その時、りんかい線を10両にするために、余っていた70-000形をJRが買い取りし改造して投入しました。そのため、少し他の209系と違う所もありますが、元々70-000形は209系を元に作られた車両だったので、あまり中身は変わっていません。こちらも3000番台同様、半自動ドアになりました。

編成図は以下の通りです。

Tc209	M209	M208	Tc208
-------	------	------	-------

←川越

高麗川・八王子→

6.209系 2000番台・2100番台



主に千葉県全域の路線を走っています。現在4両編成42本168両と、6両編成26本150両が走っています。新車で作られたものではなく、ほとんどが京浜東北線の0番台などを改造したものです。これは千葉県内を走る113系や211系の老朽化が進んだために、その置き換えるのを目的として投入されました。それにより、千葉県以東・以南を走る電車はほとんどが209系2000番台・2100番台となっています。主に2000番台は空気式ドアの使用で2100番台は電気式ドアの使用、といった違いがあります。また、中距離運用

を考えてトイレの設置、一部ボックスシート化、半自動ドア化も行いました。また、インバータの GTO 素子から IGBT 素子への変更などの改造点もあります。

編成図は以下の通りです。

Tc209	M209	M208	M209	M208	Tc208
←銚子・安房鴨川					千葉→

Tc209	M209	M208	Tc208
←銚子・安房鴨川			千葉→

7.209 系 2200 番台



南武線は当初すべて 0 番台が投入されたのですが、ドアが空気式のものや電気式のものがあるため、統一するために更新工事をしたものです。基本的には 2000 番台・2100 番台のような改造をしたものの、トイレなどはつけていません。

編成図は以下の通りです。

Tc209	M209	M208	M209	M208	Tc208
←川崎					立川→

★最後に…

この長い文を最後まで読んでいただいた方、本当にありがとうございました。初めて書いたのでとても読みにくく内容の薄いものが出来上がってしまったかもしれませんが、これを読んで少しでも 209 系に興味を持つ人が増えてくれたら嬉しいです。

ではまた来年…会えたらお会いしましょう!!



参考文献

ウィキペディア フリー百科事典

鉄道ファン 2009年4月号